

令和元年度佐賀環境フォーラム実績報告

1 実施体制

佐賀大学、学生スタッフ、市民スタッフ、佐賀市で構成する実行委員会形式

2 受講等

(1) 受講要件 高校生以上

(2) 受講料 (年間：※スポット受講は講義のみ)

- ◇ 一般 : 5,000円
- ◇ 学 生 : 1,500円 ※佐賀大学生は無料
- ◇ 法 人 : 1口 5,000円 ※1口で1人枠とし、誰が受講しても可
- ◇ スポット受講者 : 1講義につき 500円
- ◇ スポット受講者(学生) : 1講義につき 200円

(3) 参加者数 ※[参考：昨年度参加者数]

- ◇ 一般 : 17名[17名] ◇ 佐大生 : 84名[50名]
- ◇ 法 人 : 0社[3社] ◇ スポット : 114名[60名]

3 事業概要

(1) 講義

期間 : 令和元年5月14日(火)から令和元年7月11日(木)まで(全12回)

時間 : 午後6時30分から午後8時30分まで(※質疑応答含む)

会場 : 佐賀大学教養教育2号館2101番教室

回	講 義 内 容	所 属 等	講 師 名	参加者数				
				一般	佐大生	法人	スポット	合計
1	環境問題概論、フォーラム概要説明	佐賀大学 総合分析実験センター准教授 佐賀環境フォーラム実行委員会 事業部長 えこいく、ちゃりさがさいせい、フードロス、温暖化防止ネット、さが環境推進センター、元気勇気活気の会	児玉 宏樹 氏	13	39	0	5	57
2	海洋エネルギー入門	佐賀大学海洋エネルギー研究センター 准教授	有馬 博史 氏	17	39	0	4	60
3	「ハエ」で食糧危機を救う	株式会社 ムスカ 代表取締役会長	串間 充崇 氏	13	42	0	12	67
4	地域と共生する住まいを考える	佐賀大学理工学部 准教授	後藤 隆太郎 氏	14	33	0	6	53
5	海洋プラスチック汚染～大型プラスチックごみからマイクロプラスチックまで～	九州大学 応用力学研究所 大気海洋環境研究センター 教授	磯辺 篤彦 氏	15	36	0	15	66
6	新エネルギーに関する 佐賀県の取り組み	佐賀県 産業労働部 新エネルギー産業課 参事	大野 伸寛 氏	12	34	0	12	58
7	佐賀平野のトンボ類はなぜ減少しているのか	佐賀大学農学部 准教授	徳田 誠 氏	11	40	0	6	57
8	終わりのなき侵略者との闘い ～増え続ける外来生物～	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター	五箇 公一 氏	10	63	0	30	103
9	増加する「紙おむつ」の現状と将来	ユニ・チャーム株式会社 参与 工学博士	宮澤 清 氏	11	39	0	6	56
10	生物多様性をまもる ～地域の自然の調べ方～	株式会社 地域環境計画 九州支社 自然環境研究室 主任	齊藤 剛 氏	15	41	0	3	59
11	地球温暖化と金融の役割	NPO法人「環境・持続社会」研究センター (JACES) 理事	田辺 有輝 氏	15	34	0	8	57
12	有明海のリ養殖と赤潮	佐賀大学農学部生命機能科学科 講師	木村 圭 氏	11	36	0	7	54
計				157	476	0	114	747

(2) 体験講座

1) 環境学習会

【時期】令和元年6月9日(日)

【場所】ひょうたん島公園(佐賀市兵庫町)、神野公園とんぼ池(佐賀市神園)

【内容】佐賀大学農学部徳田准教授による「佐賀平野のトンボ類はなぜ減少しているのか」を受講した後、実際にひょうたん島公園と神野公園とんぼ池にてとんぼとヤゴの生息調査を行った。その結果、農村部であるひょうたん島公園のクリークではほとんどとんぼやヤゴは確認されなかったが、市街地にある神野公園とんぼ池ではたくさんのヤゴが生息し、多種のとんぼが飛び交っていた。これは講義でも指摘されていた農薬のほか、外来生物等による影響が関係していることが現地調査を行ったことで理解が深まった。このことにより、自然を守り育むという環境保全意識の向上につながった。



2) ごみ探検隊

【時期】令和元年6月23日(日)

【場所】筑後川防災施設くるめウス(福岡県久留米市)、筑後川

【内容】筑後川の自然環境を楽しみながら保全活動に取り組んでいる任意団体である「Good News」を講師に、「くるめウス」周辺のごみ調査を行った。当日はごみの量は少なかったが、大雨後は大量のごみが上流から漂着し、また不法投棄も後を絶たない現状を知らされた。そのような中、「Good News」は若い世代の親子が川と親しむことができるようカヌー体験や河川敷でイベントを定期的に開催しており、それとあわせて清掃活動を実施することで、たくさんの賛同者を獲得しているとのことであった。単なるごみ拾いではなく、楽しみながら活動の輪を広げることで啓発にもつなげる取り組みに感銘を受け、佐賀市内でもそのような取り組みが広がれば、という意見が多かった。



参加者数 () 内は昨年度の参加者数 (単位: 人)

内 容	一般	学生	スタッフ	計
環境学習会	8 (8)	34 (38)	10 (23)	52 (69)
ごみ探検隊	7 (1)	34 (31)	8 (6)	49 (38)
計	15 (9)	68 (69)	18 (29)	101 (107)

(3) 現地見学会

【時期】令和元年8月7日(水)

【場所】九州積水工業(株)(神埼市千代田町)、大和ハウス工業(株)佐賀支店(佐賀市成章町)

【内容】九州積水工業(株)では自社敷地内に整備されているビオトープを見学し、大和ハウス工業(株)佐賀支店ではZEBシステムを見学したことで、企業としての環境配慮活動と、そのことが企業自体の価値の向上につながっていることを理解した。

参加者数 () 内は昨年度の参加者数 (単位: 人)

	一般	学生	スタッフ	計
参加者数	7 (3)	29 (31)	7 (7)	43 (41)



(4) ワークショップ (WS)

1) グループWS

- ①環境教育班（7名） ②チャリツーリズム班（6名）
③フードロス班（7名）

【スケジュール】

研究成果発表会 1月26日(日) 研究成果の発表

◇主な研究内容と研究成果

①環境教育班

【内容】子どもたちに身近な環境について知ってもらうため、保育園や幼稚園を訪問し、紙芝居やゲームを通して環境教育を実施する。

【成果】学童保育や環境教育補助を行うとともに、毎年実施しているスズムシの音楽会やさが環境フェスティバル、1 Day 合宿等のイベントにも意欲的取り組んだことで、子どもたちの環境に対する知識や理解を深めることができた。なお、子どもたちや参加者に分かりやすく正確に環境知識を伝えるため、定例会を開催し話し合い、しっかり勉強してイベントに臨むことができた。

②チャリツーリズム班

【内容】佐賀の自然や歴史・文化遺産を活用した観光（エコツーリズム）の確立と自転車利用の促進を目的として、イベントでレンタサイクル事業を実施する。

【成果】佐賀大学に放置されている自転車の回収・修理をし、修理した自転車を佐賀インターナショナルバルーンフェスタでレンタサイクルとして貸し出しを実施した。その際に行ったアンケートを活用し、もっと多くの方に利用して頂くために、レンタサイクルの利用者の住まいや貸出・返却・レンタル時間を調査・分析した。

③フードロス班

【内容】フードロスの現状を学習するとともに、生産・小売・消費など様々な側面からフードロスの原因や対策について研究する。

【成果】まなびいフェスタ 2019 で野菜の可食部分を使った料理法や食材の正しい保存法、消費期限・賞味期限等様々な視点から見たフードロスの問題についてのクイズやアンケート、紙芝居等の催し物を行った。そしてその反省点を活かし、環境フェスティバルではマトリクス図の展示、紙芝居「いのちをいただく」、全部食べられるお弁当づくり等、よりレベルアップした子どもたちにも分かりやすい催しを行った。また県政出前講座やSDGs 講義を受け、自分たち自身の知識を深める活動にも取り組んだ。

2) インターンシップ型WS

【派遣の法人】

- ① 温暖化防止ネット（８名） ② さが環境推進センター（５名）
③ 三気の会（６名）

【スケジュール】

研究成果発表会 1月26日(日) 研究成果の発表

◇主な活動内容と活動成果

① 温暖化防止ネット

【内容】燃料電池車試乗会業務や環境出前講座など、省エネ活動の普及啓発に取り組んでいる。

また、環境保全活動等に取り組む市民、団体等の取り組みをPRする機会づくりとして、さが環境フェスティバルなどのイベントを開催している。

【成果】エコカー試乗会や環境フェスティバル等のスタッフとして様々な環境活動に参加した。試乗会では自動車による温室効果ガス排出量削減を推進する活動、環境フェスティバルでは本部のインフォメーションとしてスタンプラリーを行った。夏休み期間中には環境に関する展示・体験イベントを実地し、地球温暖化問題を中心とした環境問題に対して多くの方に関心を持ってもらうための活動に取り組んだ。

②さが環境推進センター

【内容】環境問題等に取り組んでいる団体、事業所と連携をしながら、まちづくり地域活性化を推進していくことを目的に活動している。また、ごみ減量、資源の有効利用に関する情報の発信、リユース品の販売、エコマーケットや体験イベント等を開催している。

【成果】環境フェスティバルやエコプラザのイベントで糸つむぎや紙すき、ねりねり石けん等のエコな物づくりを来場者や子どもたちに教え、一緒に作り、エコな物を長く大切に使うというゴミ削減の意識を広めた。

③元気・勇気・活気の会「三気の会」

【内容】自然環境が維持、保全される社会を実現するため、人と環境に優しい無農薬・無化学肥料で安全、安心の農作物作りを目指す有機農業の普及を図っている。有機農業の田植えから収穫までを体験することができる「ほんなもんぼ体験学校」では、子どもと保護者、大学生といった幅広い年齢層の方々が参加している。

【成果】さつまいもの定植、田植え・稲刈り、大豆の株間の除草作業、枝豆・玉ねぎの収穫等一年を通して有機農業を体験した。体験の中で自然と触れ合い、交流会で地域の方々と繋がりながら、自分たちが育てたものを食べ、食の安全や地産地消の意識を高めた。またごみくいでは、クリークの底にたまった泥土を陸上に上げ、クリークの保水を確保するとともに、泥土は圃場の肥料として活用するなど、循環型農業の実践にも関わることができた。

(5) イベント

○2019さが環境フェスティバル

日 時：令和元年11月9日（土）、10日（日）10：00～16：00

場 所：佐賀県立森林公園

①学生スタッフ

コースター作成、私の環境宣言（フォトフレーム作成）、パネル展示を実施。

②環境教育班

環境紙芝居の上演、ゴミ分別ゲームを実施。

③フードロス班

パネル展示、家庭におけるフードロス対策の紹介、アンケート調査を実施。





○河川清掃

大学周辺の自治会と協力し、大学内およびその周辺の河川清掃を行った。

①春の河川清掃

日 時：平成31年4月21日（日）

場 所：佐賀大学、佐賀大前自治会、しらげ地区自治会内河川

②秋の河川清掃

日 時：令和元年10月27日（日）

場 所：佐賀大学、佐賀大前自治会、しらげ地区自治会内河川

○三気の会 ごみくい

三気の会が主催するごみくいに参加し、クリーク底泥上げ・川魚の捕獲及び外来種の駆除・ふるまいを実施。

日 時：令和元年11月23日（土）

場 所：巨勢町東分上



（6）成果発表会・終講式

【日 時】令和2年1月26日（日）13:00～15:30

【修了者数】一般 12名（17名中）



（7）インターンシップ制度を活用した学生スタッフの単位認定について

学生スタッフとして従事する学生は佐賀市環境政策課へのインターンシップとして平成30年度から受け入れており、今年度は5名の学生が従事した。